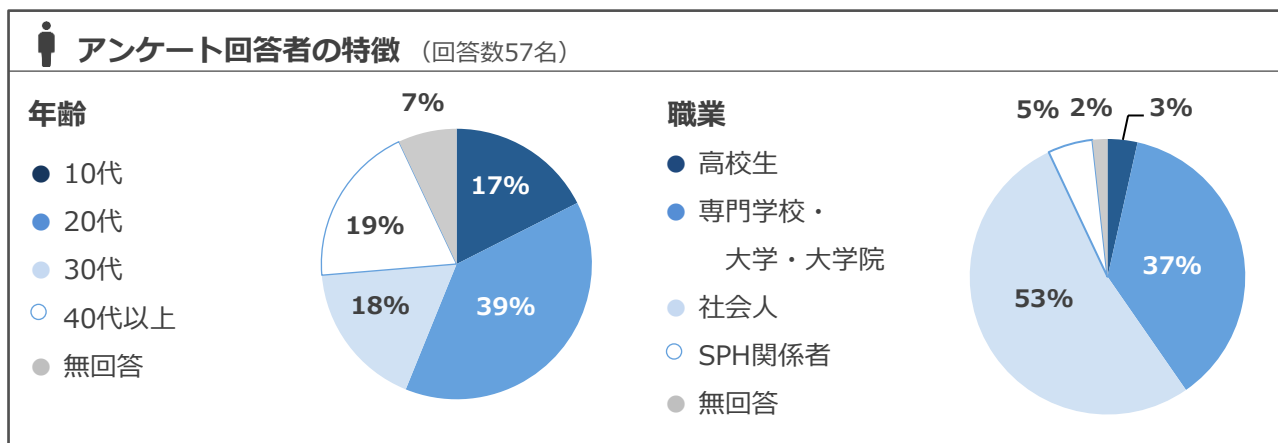


## 2018年度五月祭企画「命・健康の守り人－何百万人もの人々と向き合う－」 アンケート集計結果

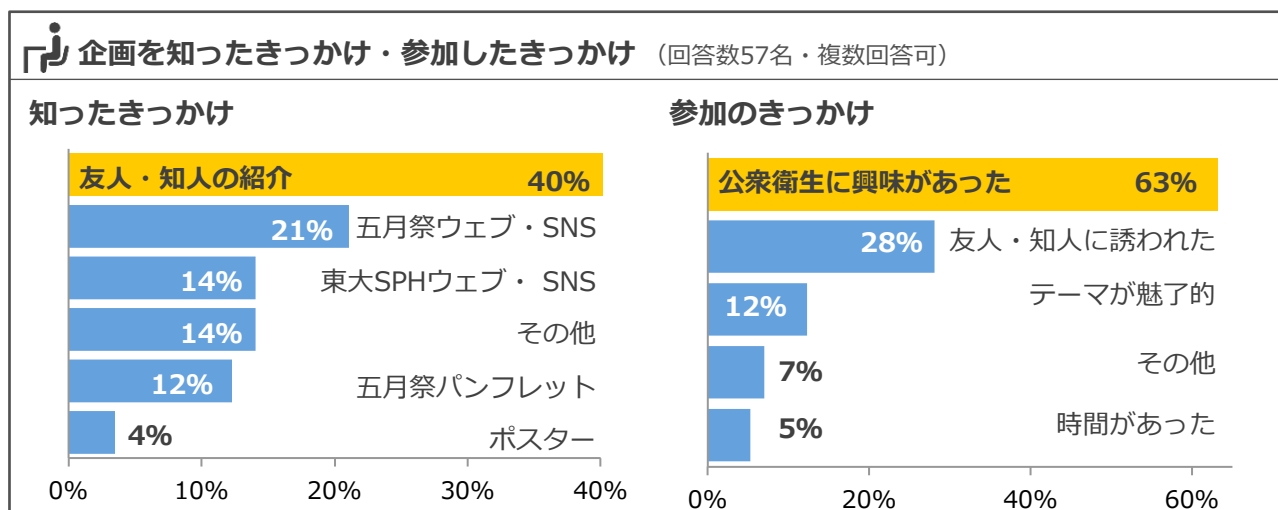
5/19（土）の東京大学五月祭にて、学部生や一般の方を対象とした公衆衛生の紹介企画を実施いたしました。以下、当日実施したアンケートの集計結果（来場者約100名のうち57名が回答）を公表いたします。

### アンケート回答者の4割が20代 職業は社会人が半分以上



アンケート回答者の年齢は20代が最も多く、10代、30代、40代以上の割合はほぼ同じでした。なお40代以上の内訳は40代、50代、60代以上の割合が同程度でした。職業は社会人が半分以上と最も多く、残りのほとんどは短大・大学・大学院でした。高校生の参加者は少なかったようです。

### 企画を知ったきっかけは友人・知人の紹介 参加のきっかけは公衆衛生に興味があったから

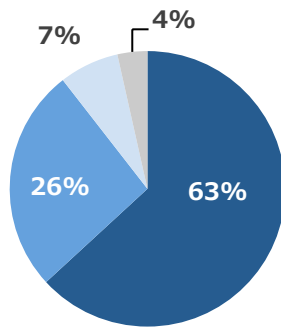


企画を知ったきっかけは「友人・知人の紹介」が最も多く、次いで「五月祭・東大SPHのウェブサイトやSNS」であり、「その他」の内訳もSPH関係者のブログやSNSとなっていました。参加のきっかけで最も多かったのは「公衆衛生に興味があった」、次いで「友人・知人に誘われた」となっていました。このことから口コミの影響力の大きさ、ウェブサイト・SNSの広報における重要性が伺えます。

## 参加の感想は9割が満足 理由はわかりやすさと複数のテーマ・視点

### 😊 参加の感想 (回答数57名)

- とても満足
- やや満足
- どちらともいえない
- やや不満 (0%)
- とても不満 (0%)
- 無回答



#### 理由 (一部を抜粋)

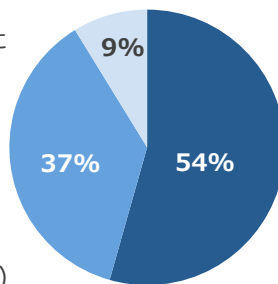
- **とても満足**  
意欲的な研究テーマの紹介があったのと、紹介がわかりやすかったため／公衆衛生の具体的な活用がイメージできた／公衆衛生という学問の中で色々な面からみる健康があると知り、楽しかったです。
- **やや満足**  
入学を検討しているのので、雰囲気を知ることができました／オムニバス形式で、色々なアプローチを学ぶことができたから／医療関係者や非医療関係者の話を聞けたから
- **どちらともいえない**  
最後の3つしか聞けなかったのので／遠すぎ

9割の方に「とても満足」、「やや満足」とご回答頂きました。理由としては紹介内容のわかりやすさの他、公衆衛生の色々なテーマについて複数の観点から紹介したことが挙げられています。

## 内容については9割がわかりやすかったと回答 理由はスライドの提示と内容のレベル設定

### 💡 内容のわかりやすさ (回答数57名)

- とてもわかりやすかった
- わかりやすかった
- どちらともいえない
- ややわかりにくかった (0%)
- わかりにくかった (0%)



#### 理由 (一部を抜粋)

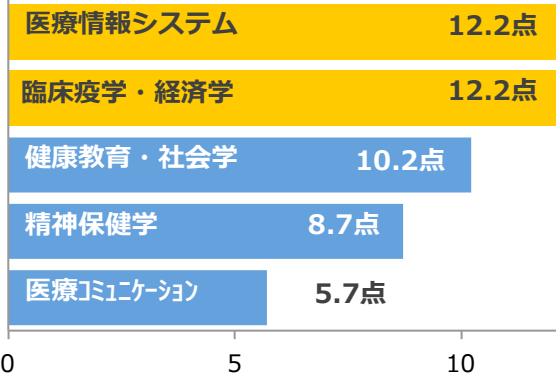
- **とてもわかりやすかった**  
パワーポイントと合わせてみてわかりやすかったです／高度過ぎる内容もなくスライドもあったから
- **わかりやすかった**  
パワーポイントによる視覚からの情報があったので／言葉をかみくだいて説明して頂けていたのでわかりやすくすんなり聞けました／1コマがもう少し長い方が良かったかなと思います。とはいえ短めのコマでオムニバスというのはとっつきやすく大変良かったです／持ち時間が短いので、ざっとの印象
- **どちらともいえない**  
話し手によって様々でした／専門用語が出てくると分からなかった／短すぎ

9割の方に「とてもわかりやすかった」、「わかりやすかった」とご回答頂きました。理由としてはスライドの使用を挙げられた方が多く、内容のレベル設定が適切だとわかりやすかったようです。なお今回のオムニバス形式が「満足」の理由となった方が多い反面、わかりにくさの原因だと考える方もいるようでした。

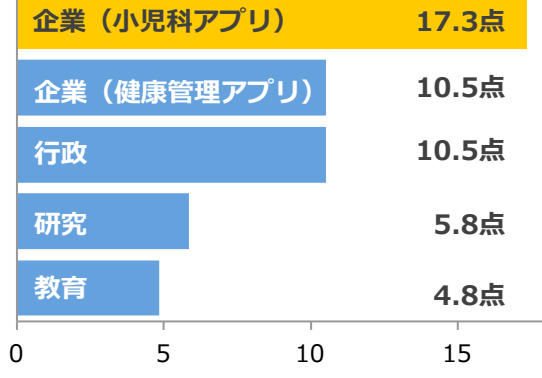
在校生の発表は医療情報システムと臨床疫学・経済学  
修了生の発表は企業（小児科アプリ）が最も印象的

👤 最も印象に残った分野

在校生の発表\*（回答数49名）



修了生の発表\*（回答数49名）



\*1人の持ち点を1点として計算。複数回答の場合は回答数で持ち点を分配。  
発表の順番により参加者数が異なることが結果に影響を与えている可能性があります。

在校生の発表のうち最も印象的だったのは医療情報システムと臨床疫学・経済学が同点で、次いで健康教育・社会学、精神保健学、医療コミュニケーションでした。修了生の発表では企業（小児科アプリ）と回答した方が最も多く、次いで企業（健康管理アプリ）と行政、研究、教育の順番でした。

興味のあるテーマは多岐に渡る  
1テーマあたり発表時間の長さは短いという声も

💬 今後の開催についてのご意見

もっと詳しく話が聞きたいテーマ\*

- 国際保健／精神保健／ビッグデータ・AI（各3名）
- 食と健康／貧困と健康（各2名）
- アドボカシー／疫学／感染症／行政が地域を巻き込む方法／ビジネス／保健政策／母子保健（各1名）

\*( )内は回答者数

企画の改善のためのご意見\*

- 発表時間が短い（2名より）
- 休憩が入るとよい（2名より）
- もう少し広い部屋で（以下各1名）
- 参加型のものがあってもよい
- SPHカフェ
- 「公衆衛生の〇〇とは？」という話よりも「公衆衛生の〇〇の最新事情!」のような話にした方が内容が面白い

話を聞きたいテーマとしてみなさまのご興味が多岐にわたることがわかりました。また時間配分について、発表時間が短い、休憩時間を入れてほしいとのご意見をいただきました。発表時間は本企画の「まずは公衆衛生学とは何かを知ってもらうこと」という趣旨を踏まえて10分としていましたが、もう少し検討が必要だったかもしれません。休憩時間は出入り自由とすることで配慮しておりましたが、どのテーマも続けて聞きたいと思ってくださった方々への配慮が不十分だったように思います。

次年度以降の企画実施に結果を反映していきます

次年度も本企画を開催するかどうかは現時点では未定ですが、本集計結果等を踏まえて今後検討していきます。アンケートにご回答くださった皆様、ご協力ありがとうございました。